敬老の日制定50周年
「敬老文化」のまち宣言

平成28年9月15日







戦後の動乱期の昭和22（1947）年、当時の村長である故・門脇政夫氏が野間谷村（旧八千代町）で初めて村主催の敬老会を開催し、長い間社会に貢献されてきたお年寄りに敬意を表すとともに、知識や人生経験を伝授してもらう場を設けました。そして、9月15日を「としよりの日」と定め、村独自の祝日とすることにしました。その後、昭和41（1966）年、「敬老の日」は体育の日などとともに国民の祝日に加えられました。

町では毎年、喜寿敬老会、おじいちゃんおばあちゃんの児童画展を開催するなど、敬老の精神を受け継いだ取組を行っています。

平成25（2013）年には公募による敬老のうた「きっとありがとう」を制作しました。また、平成28（2016）年9月15日には秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、敬老の日制定50周年記念式典を開催し、『「敬老文化」のまち宣言』を行いました。

「敬老文化」のまち 宣言

私たちは、永きにわたり社会に貢献された高齢者を敬愛し、その優れた知恵や経験を受け継ぎ、子や孫へと確実に伝えます。

また、自らの知識や意欲を高め、地域を支える一員としていつまでも元気に活躍し、充実した人生を送ります。

そして、すべての世代が互いに助け合い、笑顔あふれる多可町をめざし、ここに「敬老文化」のまちを宣言します。

平成28年9月15日

敬老の日発祥のまち 兵庫県多可町

【「月刊福祉1995年9月号（全国社会福祉協議会刊）」 敬老の日提唱者：門脇政夫氏へのインタビューより抜粋】

昔は、お年寄りの経験や知恵が、生活していくうえでのよりどころでした。若者は、そういったものがいかに役に立つかを、農作業や毎日の生活をとおして、繰り返し実感させられたのです。そして、やがてはそれが自分のものになって、また自分の子や孫に伝えていく。

ところが今は、親から子へ、年寄りから若者へ教えられる技術が、どれほどあるでしょうか。年寄りの知恵は今も通用するものも多いはずですが、古いというだけで見向きもされないこともあります。長い年月を生きてきて、さまざまな経験をつんで、その結果として今老いているということが、価値ではなくなってしまっている。非常に残念に思います。こんな時代だからこそ、『敬老の日』の意味合いもいっそう多様なものとなっているのではないでしょうか。

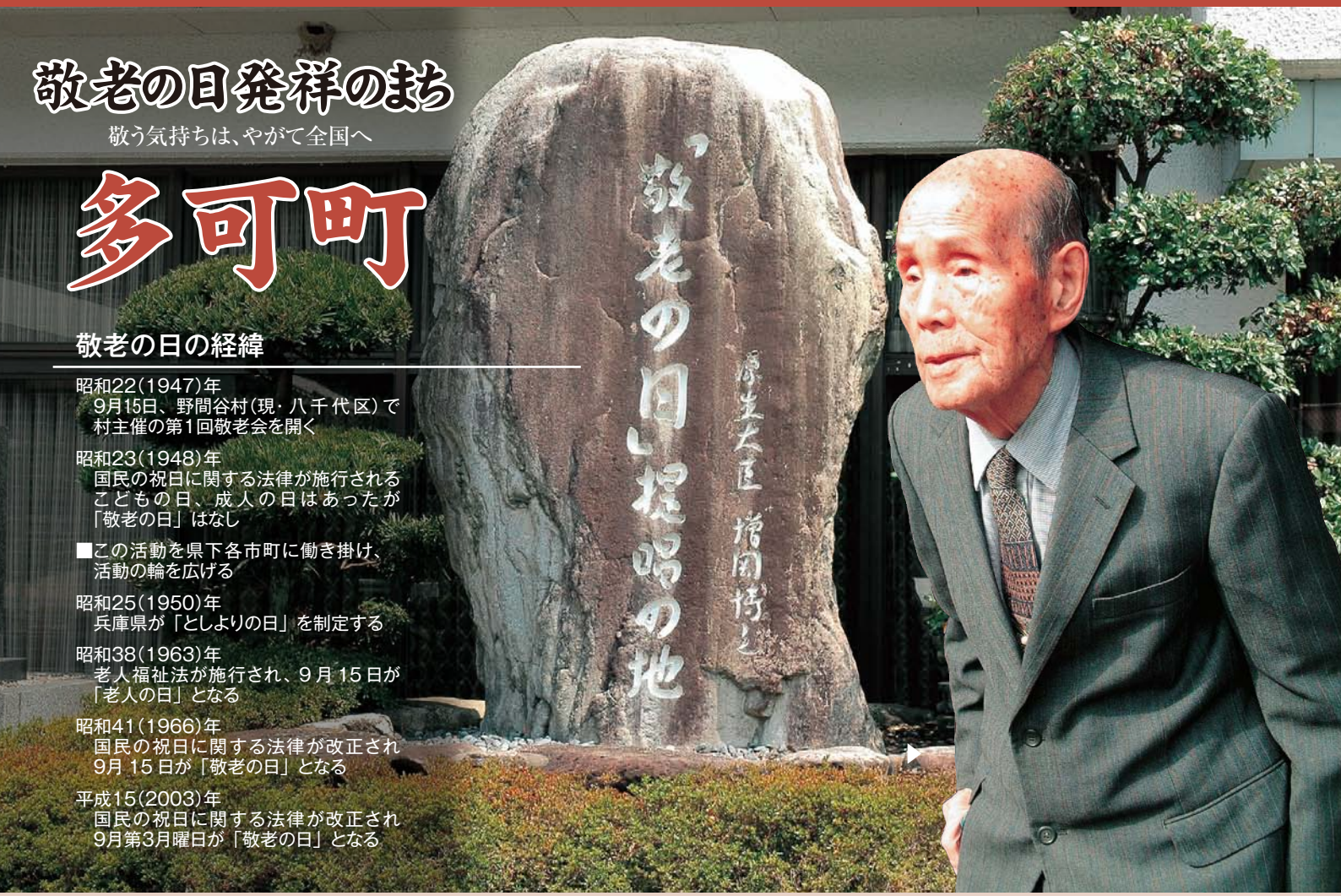
『敬老の日』は、単にお年寄りを慰めるためだけのものではありません。お年寄りを中心に、まち全体が集える、社会参加の機会となること、また、若者が自分たちの老後を考える機会となることを目指して、私たちの運動はあったのです。

今、バブルが崩壊して、物質的な豊かさから、心の豊かさへと求められるものが変わってきています。これから、本当の文化の時代を迎えようとしているところではないでしょうか。

私が考える文化の時代とは、高齢者の知恵が生きる時代です。わき目もふらず技術革新に邁進して、先だけを見ていた時代とは違う。迷いや混乱のなかで、戦中・戦後の混乱期を生き抜いた経験者として、私たち高齢者にこそできる支援があると思うのです。このパワーを活用することは、高齢者と若者の両方にとって有意義なことです。

今こそ、『敬老の日』の原点にかえって、真の敬老精神が活かされることを望んでいます。

敬老の精神を受け継ぐ町として 守り続けたい…その誇り



「敬老の日」の生みの親　故 門脇政夫さん(名誉町民)

「敬老の日」の提唱者 名誉町民 門脇政夫氏が語り継ぐ

ー「敬老の日」に込める思いー

昭和22年当時は戦後の混乱が続く時期で、子どもたちを戦地に送った親たちは、本当に精神的に疲れていたのです。わたしは当時、福祉政策に力を入れていて、そんな親たちに少しでも報いてあげなければいけないと思いました。そこで「養老の滝」の伝説にヒントを得て、9月15日を「としよりの日」とし、55歳以上の人を対象に敬老会を催すことにしました。そんな敬老の精神は、全国に輪を広げ、今日の国民の祝日「敬老の日」制定につながりました。

初めて開催した敬老会から途切れることなく、毎年敬老会が開催されていること、ありがたいと思っています。お年寄りを大事にすることの大切さ、敬老の精神をこれからも受け継いでいってほしいです。

いつまでも受け継がれていく お年寄りを敬う気持ち



▲八千代公民館の玄関脇に立つ「敬老の日提唱の地」の石碑

多可町発祥の 敬老の日 一体どのようにして誕生したのか？

八千代公民館の玄関脇には、高さ約2メートルの石碑が立っています。前面には「敬老の日提唱の地」と刻み込まれ、敬老の日発祥のまちとして誇り高きシンボルとなっています。

「敬老の日」の誕生は、戦後の動乱期、昭和22年までさかのぼります。

当時、野間谷村（現・八千代区）の村長であった門脇政夫さん（中野間）は、初めて村主催の敬老会を開催しました。長い間社会に貢献してきたお年寄りに敬意を表すとともに、知識や人生経験を伝授してもらう場を設けることが目的だったそうです。

敬老会の期日は、農閑期で気候的にも過ごしやすい9月15日とされました。当日は、村中の自動三輪車を集めて55歳以上の人を送迎し、公会堂に招いてごちそうと余興でもてなしました。

翌昭和23年に「国民の祝日に関する法律」が施行。その中で、こどもの日・成人の日は祝日として挙げられましたが、敬老の日は挙げられませんでした。そこで、門脇さんは、この年に開催した2回目の敬老会で、9月15日を「としよりの日」と定め、村独自の祝日にすることを提唱しました。

そして昭和25年、兵庫県は他県に先んじて9月15日を「としよりの日」と定めました。さらに、県や国に対して働き掛けを続け、昭和41年、ついに「敬老の日」は、体育の日などとともに国民の祝日に加えられました。

伝統を受け継ぐ

誇り高き伝統を受け継ぎ、町では毎年、喜寿敬老会、おじいちゃんおばあちゃん児童画展を開催し、各区においてもそれぞれに敬老会などが行われています。

また、平成25（2013）年に敬老の歌「きっとありがとう」を製作、平成28（2016）年には『敬老文化』のまち宣言を行いました。

多可町が担う役割…。それは、「敬老の精神」をいつまでも受け継いでいくことではないでしょうか。

敬老の精神を受け継ぐ町として守り続けたい…その誇り

敬老の日発祥のまち

敬う気持ちは、やがて全国へ

多可町

敬老の日の経緯

昭和22年
　９月15日、野間谷村（現・八千代区）で村主催の第１回敬老会を開く

昭和23年
　国民の祝日に関する法律が施行されるこどもの日、成人の日はあったが「敬老の日」はなし

■この活動を県下各市町に働き掛け、活動の輪を広げる

昭和25年
　兵庫県が「としよりの日」を制定する

昭和38年
　老人福祉法が施行され、９月15日が「老人の日」となる

昭和41年
　国民の祝日に関する法律が改正され９月15日が「敬老の日」となる

平成15年
　国民の祝日に関する法律が改正され９月第３月曜日が「敬老の日」となる



「敬老の日」の▶
生みの親
門脇政夫さん
（名誉町民）

「敬老の日」の提唱者
名誉町民　門脇政夫氏が語り継ぐ

－「敬老の日」に込める思い－

　昭和22年当時は戦後の混乱が続く時期で、子どもたちを戦地に送った親たちは、本当に精神的に疲れていたのです。わたしは当時、福祉政策に力を入れていて、そんな親たちに少しでも報いてあげなければいけないと思いました。そこで「養老の滝」の伝説にヒントを得て、９月15日を「としよりの日」とし、55歳以上の人を対象に敬老会を催すことにしました。そんな敬老の精神は、全国に輪を広げ、今日の国民の祝日「敬老の日」制定につながりました。

　初めて開催した敬老会から数えると今年で68年目を迎えます。毎年敬老会が開催されていること、ありがたいと思っています。

　お年寄りを大事にすることの大切さ、敬老の精神をこれからも受け継いでいってほしいです。

いつまでも受け継がれていく お年寄りを敬う気持ち



▲八千代公民館の玄関脇に立つ「敬老の日提唱の地」の石碑

多可町発祥の「敬老の日」。一体どのようにして誕生したのか？

八千代公民館の玄関脇には、高さ約2メートルの石碑が立っています。前面には「敬老の日提唱の地」と刻み込まれ、敬老の日発祥のまちとして誇り高きシンボルとなっています。

「敬老の日」の誕生は、戦後の動乱期、昭和22年までさかのぼります。

当時、野間谷村（現・八千代区）の村長であった門脇政夫さん（中野間）は、初めて村主催の敬老会を開催しました。長い間社会に貢献してきたお年寄りに敬意を表すとともに、知識や人生経験を伝授してもらう場を設けることが目的だったそうです。

敬老会の期日は、農閑期で気候的にも過ごしやすい9月15日とされました。当日は、村中の自動三輪車を集めて55歳以上の人を送迎し、公会堂に招いてごちそうと余興でもてなしました。

翌昭和23年に「国民の祝日に関する法律」が施行。その中で、こどもの日・成人の日は祝日として挙げられましたが、敬老の日は挙げられませんでした。そこで、門脇さんは、この年に開催した2回目の敬老会で、9月15日を「としよりの日」と定め、村独自の祝日にすることを提唱しました。

そして昭和25年、兵庫県は他県に先んじて9月15日を「としよりの日」と定めました。さらに、県や国に対して働き掛けを続け、昭和41年、ついに「敬老の日」は、体育の日などとともに国民の祝日に加えられました。

伝統を受け継ぐ

誇り高き伝統を受け継ぎ、町では毎年、**喜寿敬老会**、**おじいちゃんおばあちゃん児童画展**を開催し、各区においてもそれぞれに敬老会などが行われています。

多可町が担う役割…。それは、68年前に提唱された「敬老の精神」をいつまでも受け継いでいくことではないでしょうか。